

海外で子どもを育てながら生活するのは決して楽なことでは有りません。そこに、「子どもの日本語が出てこなくなつた!」となると大事件です。

幼児の場合は親が問題に気づき、このときに問題解決のために努力したかどうかがお子さんの言語能力、ひいてはこれからの人生に大きく影響してきます。

母親経験談 我が子の日本語力

Aさん…3歳の子を連れて渡米したとき、①近所に住む4歳の子が日本語で話しかけてきたが、「ア、ウー」としか聞き取れなかった。我が子がそうならないように家では意識して日本語を話しているが、三年生ころから日本語が非常に聞き取りにくくなった **Bさん**…6歳と5歳の子とも渡米、日本で日本語の読み書きを習っていたので、英語を覚えるのに必死になった。ところが、②二年目を過ぎた頃から兄弟間の会話が英語になった。補習校である程度の日本語維持は出来ています。けれども、③接続詞等の御用が目立ち始めた。

Cさん…3歳で渡米し、家では日本語を話し、読み聞かせをし、夏休みには帰国して体験入学をさせ、補習校にも通わせ、通信教育も受けています。それでも、②7歳になった今、「英語では書けるけど、日本語の文章が書けない。」と言う。そして、③日本語の構文に英語を混ぜて話します。

三つの例を整理してみると、

① 本人は日本語を話しているつもりなのに、聞く方には意味不明で日本語とは思えない状態。

(幼児期の一時的セミリンガル現象)

② 海外にあって最高の日本語を与えていても、7歳あたりから日本語力が落ちて日本語で話すことを避ける。補習校で日本語学習を続けているにもかかわらず、日本語の保持・発達が難しい。

(出国年齢と日本語保持の関係)

③ 兄弟間で英語を話す。日本語に英語が混じる。日本語に間違いが目立ち不完全である。

(二言語の干渉)

① 幼児期の一時的セミリンガル現象

日本語の基礎が出来ていない幼児期に異言語環境に入ると、日本語の発達が阻害され、英語習得にも時間がかかるので一時的にどちらの言葉も不十分という現象が起こる。これをセミリンガルという。子どものセミリンガルは一時的で珍しくなく、その言語のコミュニケーションの中にいれれば年齢相応の言語力に戻る。セミリンガルが極端になると、「ボウフラ現象」といって、日本語でも英語でもない言葉をつぶやく。

② 出国年齢と日本語保持の関係

十と十二歳以降に出国した子どもを除いて、就学期に補習校や通信教育で日本の教科を勉強しても、日本語入力力は4年目くらいから下がる傾向にある。現地で生まれたり、5歳以前に海外に出たりした場合は、会話力でも読解力でも母語の保持は非常に難しい。

③ 二言語の干渉

外国語習得中に大人でも起こることで、弱い言語の方に現れる。特に、言語形成前半(9歳まで)の子どもによく現れるが、二言語が発達すれば自己修正されて問題はなくなる。高学年になると二言語の分化が進んでいるので、子どもが英語交じりの日本語を話したら要注意、セミリンガルの危険が隠されている場合もある。

④ 母語の基礎づくりと学習言語力の発達

幼児期に母語をしっかり身につけると、二言語の認知面が発達し、学習言語も習得できる。特に、4年生以降の抽象的な授業の内容が理解できるようになる。

母語の基礎をつくるには

海外での子育てで一番難しいことは、幼児期に母語の基礎が作られることです。どのように母語を身につかせたいのでしょうか。

一、絵本のおみかせに勝るものない。

0、4、5歳の時代に読み聞かせて母語の土台をしっかり作ることが重要です。精神面で安心感を持ち、子どもは読んでもらって考え、想像し、その先を予測する。この体験から内面の感性を鍛え思考力を高めることになる。思考能力を育てて学習言語力が伸びる言語形成期(小学生)に入っていくことが出来る。

二、日常的に母語を使用すること。メディアの利用や年齢によって母語の読み書きをさせることも大切。

風邪・インフルエンザの季節です!

風邪やインフルエンザで、
欠席する子が出て来ました。
集団からの感染を防ぐために、

- ① 無理に登園せず、ゆっくりと休ませる。
- ② ポケットティッシュを持たせて、鼻をかむ習慣をつける。
- ③ 脱ぎ着しやすい服装で登園する。

体調管理には十分注意してお過ごしください。



今月の予定

8/22 運動の日

9/05 保護者座談会 (予定)

※今月は、1～50までの数を数えます。
毎週10ずつ順番に数えます。

二学期の授業時間

9時45分～11時35分
(少し早めに登園しましょう。)

さくら・ひまわり組からのお知らせ

1. 8月中に全部のひらがなカードを配ります。ご家庭では、お子さんの興味や日本語レベルに合わせてひらがなカード並べを練習しましょう。下記の練習方法を参考にして、声を出して読みながら並べる癖をつけましょう。

- ① 3行ずつ並べる。
- ② 苦手な字の行を並べる。
- ③ あ段 (あ、か～ら、わ) を先に並べる。
- ④ カードを全部並べる。
- ⑤ お母さんと交替で並べる。
- ⑥ 裏返して取ったカードを並べる。

50音を一回並べたら、「ひらがな ならべ がんばりカード」に色を塗りましょう。(3回並べたら3つぬる。)

☆ 並べ終わったら、行毎に輪ゴムで止めることも大事な学習です。輪ゴムの止め方のコツを教えてください。

2. 「よむぞう」は、今まで習ったひらがなを使った言葉遊びです。

× 早口で読まない (一文字の発音が曖昧になります。日本語独特のリズムがとれなくなります。)

◎ 口をはっきり開けて声が出せる。日本語の発音ができる。「し」が「ちゅ」、「せ」が「ちえ」にならない。

◎ 4音・2音、4音・3音、4音・4音など、区切りの良いリズムで言える。

3. 数の読み方の練習をします。日本で多く使われる数名詞にも触れます。「○にち/△か、ひとり/○にん、○まい、○こ、○ほん」などです。ご家庭で数えるときにも使ってあげると身につきます。(一年生の学習に発展します。)

